

## 巻頭言

# CNCP の現況と目指す方向

(特非) シビル NPO 連携プラットフォーム 理事  
事務局長 内藤 堅一



シビル NPO 連携プラットフォーム(CNCP)の事務局長をしています。いつもは CNCP 通信の原稿を依頼して編集をする立場ですが、今回は私が執筆して CNCP の現況を概観し、目指している方向をお示することになりました。Vol.7 の巻頭言で「CNCP のこれまでと、これから」を書かせて貰いましたので、その後の展開状況を書かせていただきます。

## 1. 現況の活動状況

各部門の活動状況は 3 部門の活動を「部門活動紹介」という形で 3 か月に 1 回のペースで紹介しています。トピックス的な紹介になっていますので、少し整理して紹介します。

- サービス提供部門では、教育研修委員会で「シニアパワーアップ研修」を企画して市民活動コーディネータ養成講座などを実施しております。新たな活動として会員の活動に資金的な支援ができることを目指してファイナンス研究会を立ち上げたところです。
- 地域活動推進部門では、「自治体インフラメンテ研究会」を土木学会のシビル NPO 推進小委員会（田中 努小委員長）と連携して進めています。ここに参加している会員の所属する NPO 法人を中心に国交省の進める「インフラメンテ国民会議」への積極的な参加を進めています。また、土木学会の学術文化事業の採択を受けて法人賛助会員の社会的参加について調査し、法人賛助会員の発表の場を作るように計画しています。
- 事業化推進部門では建設系に特化したマッチングシステム「シビルマッチ」を立ち上げ運用を開始しました。CNCP アワード 2016 は無事に終了し、通常総会に併せて受賞式典を行い、マスコミにも取り上げて貰いました。新たな活動として「シンクタンクチーム」を立ち上げ、受託事業として地域おこし活動にも参画しようとしています。

## 2. 目指している方向

CNCP は中間支援組織として認定 NPO 法人を目指すという方針を掲げています。事務局はこれに向けて準備をしてきましたが、まだクリアできない条件が 2 つあり、来年度以降の申請を目指して対応を進めています。そのひとつのパブリックサポートテスト(PST)の絶対基準では年 3,000 円以上の寄附者の数が平均 100 人以上である、または、相対基準で収入金額に占める寄附金の割合が 20%以上であることを満たす必要があります。もう一つが事業活動に関する基準で受入寄附金総額に対する「受入寄附金額のうち特定非営利活動に係る事業費に充てた額」の割合が 70%以上という基準があります。つまり、受け入れた寄附金は事業に使わなければならないという基準です。この 2 つの基準をクリアする方向で実際の活動をし、会計処理をしていく必要があります。賛助会員の年会費が税額控除の対象になるという特典がありますので、是非実現したいと考えております。

今後はサポーターの拡大を通してより多くの支援者を得ることを目指して活動を展開していきます。サポーターへの情報発信を高めていきます。土木学会の学術文化事業を通して、法人賛助会員の CSR 活動の実態調査や、発表の場の設定などを通して、CNCP との連携の場作りに取り組んでいきたいと思っています。

シビルマッチのシステムがどんどん使われ、シンクタンクチームが受託事業を引き受けたり、新規の事業を作り出していくことが重要な課題と考えています。

CNCP の仕組み作り、事業づくりに、会員各位の積極的な提言と参加をお願いします。